

# 県政からの風

県議会政務活動報告書  
2022.秋号



那須特別支援学校寄宿舎調査

## 内容

- ごあいさつ ..... 1
- 郷土の誇り胸にアスリート集う! ..... 2
- 寄宿舎設置の意義問う ..... 3
- アリーナに音楽と演技が融合! ..... 4
- 中橋架け替え促進を ..... 5



栃木県議会議員

加藤 正一

人に安心!

暮らしにゆとり!

地域に元気!

ソフト・スマイル・エネルギー!

# ごあいさつ

## 政策・要望をさらに前へ

民主市民クラブでは県執行部に対し、当初予算編成や新型コロナウイルス感染症、豚熱対策など県政に関する政策推進に向け各種要請行動に取り組んでいます。今年度中間期における政策推進要望に関し8月下旬提出し、9月通常会議を前に知事から回答が示されました。

今年度事業の進捗状況や新たな政策課題の取組について、会派の政策担当責任者として取りまとめ21項目に亘り要望。



会派要望書提出

7月からの感染症拡大第7波に対し、想定人数を上回る最大3万人を超えた自宅療養者の対応へ、健康観察フォローセンター継続と体制強化、クラスターが多発する高齢者施設の患者受入れへ病床拡大や専用施設の設置を提言するとともに、保育所等での感染における代替保育支援や施設の運営継続へ濃厚接触者の特定・行動制限取扱いの運用検討を促し、12歳未満時へのワクチン接種の努力義務化に伴う丁寧な周知・啓発を要請しました。

ワクチンの4回目接種にあたっては対象者の拡大、コロナ後遺症に対する情報発信、相談・受診体制の整備を求めています。

また、原油価格高騰等の負担増を診療報酬へ転嫁出来ない医療機関へ、新たな国県の支援創設を要望し、県内観光産業の推進では「県民割」の継続、

入国制限緩和を見据えたインバウンド対策の強化、農業分野においては県産米の需要拡大・米価安定の取組を訴えました。



政策要望懇談

カーボンニュートラルに向け県内促進地域設定や地産地消型再生可能エネルギーの導入拡大、民間事業者の商用電動車化を支援するとともに、SDGs推進企業の多様な業種による展開。学校教育ではタブレット端末の維持管理費やICT支援員の拡充支援、専科指導及び学力向上実践配置教員の加配の取組です。

知事は要望をもとに199億3,700万円余の予算化を図ったものの、検討課題に止まる項目もあり、更に政策・要望を前へ進めるべく課題の精査に努め、本会議や委員会での質疑等初め、連合など関係団体との各種要請行動を通じて会派一同取組んで参ります。



会派要望書提出記者会見

# 郷土の誇り胸にアスリート集う！

## いちご一会とちぎ国体開幕



栃木県選手団入場

第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）が10月1日、宇都宮市カンセキスタジアムとちぎでの総合開会式で華やかに開幕。国内最大のスポーツの祭典は、新型コロナの影響で過去2年延期や中止となる中、2019年の茨城国体以来3年ぶりの開催です。

会場の収容定員を半数程度にするとともに、ボランティア含め関係者も事前の健康チェックに努めるなど万全の感染対策を図りながら迎えた開会式は秋晴れのもと、選手団や式典演技出演者、ボランティア合わせ約1万8千人が参加。栃の葉国体以来42年ぶりの開催に、この日を待ちわびた県民ら約7,300人が観客席で出迎えた。前回開催時に足利市職員となった私も感慨無量、貴重な機会を得ることができ感動マックスです！

開会前セレモニーには和太鼓や民謡など県内の多彩な団体が出演、足利市の八木節も軽快なリズムと郷土に因んだ歌詞を披露し歓迎ムードを演出。



選手宣誓

天皇、皇后両陛下も3年ぶりの地方訪問で臨席される中、沖縄県を先頭に選手団が入場、最後にいちごカラーのユニフォームで本県選手団335人が登場し激励の拍手はさらに高まり、会場の熱気と一体感は最高潮に!!

整列した47都道府県約1,700人の選手団を前に福田知事は、「一期一会、この出会いを大切に素晴らしい大会になることを祈念します」と力強く開会宣言。炬火の入場では、栃の葉国体出場選手や本県ゆかりのアスリートにつながれ、炬火台の点火をバドミントンえんどうみはねの遠藤美羽さん、馬術ひろたやまとの広田大和さんが行った。



スタジアム正面スタンド

選手宣誓はスポーツクライミングのならさきともあ榎崎智亜さん、ホッケーのこづかみき狐塚美樹さんが努め、「最後まで精一杯競技する」との声がスタジアムへ響き渡った。エンディングは彩鮮やかな衣装を着た約1,400人の出演者により、自然や歴史、産業、観光を表現した踊りや歌で本県の魅力をアピール。

大会は11日の閉会式まで35の正式競技が、県内21市町と千葉市でセーリングが実施され、「天皇杯」「皇后杯」獲得へ各県選手が熱戦を展開しました。

今大会を通じ本県競技力の向上と県民のスポーツを楽しむ機運醸成、更なるとちぎの魅力発信で「夢を感動へ。感動を未来へ。」つながるよう、私も大いに期待します!!!

# 寄宿舎設置の意義問う

## 県立栃木・那須特別支援学校

設置から40年以上が経過する栃木・那須両校寄宿舎について、県教育委員会は施設の老朽化と通学環境の変化から昨年7月、各学校を通じ来年3月末をもって閉舎すると保護者に伝えました。

10月中旬、PTA役員へ個別に同様の説明を行った結果、県教委は何れも「関係者の理解が得られた」と判断し、11月2日両校全保護者へ「寄宿舎閉舎」の教育長通知を学校経由で発出。この間、児童生徒が寄宿舎での生活訓練を重ね、自立に向け取り組む我が子の成長ぶりに寄宿舎での教育的効果を実感し、学校の取組に感謝してきた保護者は大いに戸惑い、子どもらの閉舎後の教育環境に不安を感じ続けてきたそうです。

同じ学校に通う子どもながら、コロナ禍で保護者同士の交流はなく、「閉舎をどう受け止め、どうしたら良いのか悩んでいた。」と、後に多くの保護者の声を伺いました。

当時、文教警察委員の私にも県教委から、「保護者への説明を行い、理解が得られたので、スクールバス増便等の対応を図っていく」と報告がありました。

教育長通知の最終的な閉舎決定で保護者らの不安・疑問は広がり、今年2月に約7,700人分の存続を求める署名が県教委へ提出。加えて、大田原市・那須町・



那須特別支援学校寄宿舎

矢板市議会に働きかけた陳情が採択され、各議会では県に存続を求める意見書を提出しています。

これら状況を踏まえ、私は今年2月議会の委員会で、この間の保護者への対応や市町議会の陳情採択へ県教委の考え方を質し、今後の状況によっては寄宿舎存続も含め慎重な対応を求めました。

県教委と保護者らの協議が継続する中、保護者らは7月から毎週土曜、寄宿舎存続を求め街頭での署名活動を行う一方、県庁前でのアピール行動にも取り組んできました。「どうしたら…」と悩んでいた保護者らが猛暑のなか行った街頭署名は、約18,000筆に上り県へ提出されます。

先般、那須特別支援学校寄宿舎の現地調査を行ってきましたが、5年前改修工事が行われた校舎棟は外観も整備され、寄宿舎の状況とは対照的です。しかし、寄宿舎は思っていた以上に維持管理され、平屋建てという構造から十分改修による継続使用は可能です。

子ども達の成長に寄宿舎での生活訓練が大きく寄与してきたことは、卒業生や保護者らが高く評価しています。

私はこれまでの県教委や学校の取組は、本県教育行政の誇るべき実績と考えます。



那須特別支援学校寄宿舎宿泊室

# アリーナに音楽と演技が融合！

## マーチングバンド県大会



TKCいちごアリーナ(鹿沼総合体育館)

コロナ過により過去2回はビデオやDVDによる参加だったマーチングバンド・バトントワリング栃木県大会が9月19日、TKCいちごアリーナ(鹿沼総合体育館)で一堂に会し3年ぶりに開催された。同大会は57回を数え、43回となる県高等学校文化連盟マーチングバンド・バトントワリングフェスティバルとの合同で行われました。

音楽と演技を融合したマーチングバンドと芸術的感性を育むバトントワリングは、集団による華麗なパフォーマンスから、観る人達に夢と感動を与える競技として周知されています。



サザンクロスライブ(オペラ座の怪人)

2年半以上に及ぶ感染対策や行動制限にありながらも、各チームは活動を停止することなく、工夫を重ね個人や集団での練習に励んできたことを、競技開始前のチーム紹介で何れも述べていました。

同大会には私が顧問を務めます《足利ジュニアマーチングバンド Southern Cross(サザンクロス)》が、「一般/

小編成の部」に参加。曲は今年3月、サザンクロスが行ったライブでの〈オペラ座の怪人〉を演奏。(当日は撮影が認められておらず、ここでは3月ライブ時の写真を掲載します)

3年ぶりの対面式による大会参加からか、幾分緊張した様子も見受けられましたが、開始とともに広いアリーナ一杯、躍動感溢れるパフォーマンスを披露し会場は拍手喝采!

サザンクロスも他チーム同様、コロナ禍の影響から練習場所やメンバー揃っての全体練習、出演イベントの制約から思うような活動が出来ず、そのため団員募集も十分図れない中で、メンバーの頑張りのもと、指導スタッフや保護者、OG・OB達の支えのもと、観る人へ夢と感動を与えることが出来ればと活動中です!

サザンクロスは皆さんの声援と、新たなメンバー入団に期待しています!!



サザンクロスライブ・フィナーレ

# 中橋架け替え促進を

## 県整備事業足利市要望活動



足利中橋(全景)

足利市の中央部を流れる渡良瀬川を横断し、主要地方道足利・千代田線に架かる中橋は、架設後80年以上も経過することから経年劣化が進んでいます。その桁下高も河川の計画高水位を下回っていることから、国土交通省関東地方整備局は直轄河川重要水防箇所の重要度Aランクに指定している。

令和元年東日本台風では左右岸堤防の切り込んだ部分に、大型土のうを積んで水防対策を行っています。

こうした状況を踏まえ、これまで国・県・市3者で組織する「中橋検討委員会」において様々な検討を進めるとともに、地域住民との説明会や意見交換を重ね、都市計画の変更に向けた準備を進めてきました。

昨年11月9日に都市計画道路の変更公示が行われ、本年1月25日には都市計画事業認可が告示となり、3月31日には国・県・市の3者間で事業の施行区分や費用負担など、基本的事項を定めた基本協定を締結。

しかし、地域住民からは事業の実施にあたり、隣接する踏切の存続やバリアフリー対策はじめ、事業完了まで

の通行止めや迂回路への誘導等に対し、交通渋滞対策や工事期間短縮の検討など要望が寄せられています。

中橋架け替えは経年劣化による整備に加え、橋付近の堤防嵩上げによる治水対策など長年の懸案事項でした。災害に強い安全・安心なまちづくりの推進はもとより、本市景観を形成する象徴として欠かすことのできない最重要事業と考えます。

そのため、足利市では関係機関への働きかけ、要望活動に取り組んできました。県議会県土整備委員会では今年度現地調査の対象案件として取り上げる一方、8月26日には市として県に対する要請行動を行い、何れも地元議員として同席し整備計画の推進、支援を要望したところです。

新橋整備に伴い歩道・自転車道として活用する三連アーチ型の現中橋を、下流側へ移設するための下部工(橋脚)に今年度着手。総事業費約107億円の中橋架け換え整備は、2027(令和9)年完成を目指します!



足利中橋(左岸)



足利中橋(右岸)

## 中橋架替工事（スケジュール）



→ 歩行者・自転車の通行場所

※予定であり変更の可能性がります。

## 中橋架替工事（車両通行止め時の迂回ルート）



